

## グローバル人材育成推進事業

## 東京医科歯科大学（学部入学定員：275人）

[取組学部・研究科等: ○医学部（190人）, 歯学部（85人）]

## 【構想の目的・育成するグローバル人材像】

グローバル化が進むなかで、医療の国際標準化および国際協調の観点から必要度の増す医療人の英語運用力の底上げを図るとともに、成熟した国家である日本が主要先進国として生命科学研究・国際保健/医療政策・国際協力/医療観光等医療産業分野において世界を支え牽引していくために中心的役割を担うグローバルヘルスリーダーを育成する。

## 【構想の概要】

全学生を対象とした異文化交流機会の創出、全科目最終試験問題の一部英語化、海外留学応募の必須要件にTOEFL基準を設置、民間英語教育機関との提携や教養/専門課程英語教育のシームレス化による英語教育強化により、全学生の英語運用力底上げを図る。また、グローバルヘルスリーダー育成のために通年制プログラムGlobal Health Science Program (GHSP)を新設し、学士課程教育に加え、英語運用力強化、グローバルな視点の獲得を目的とした必修科目履修、単位互換による海外留学を課し、ポートフォリオの利用とメンタリングによるキャリア構築支援を行う。

## ■ 教育課程の国際通用性の向上

## ○ 教育課程の国際通用性の向上のための取組

全科目シラバスの充実と標準化・一部多言語化、国際標準であるコードによるナンバリング導入、GPA制度の運用状況評価・改善、双方型授業・アクティブラーニング等の更なる導入と自己学修時間の確保による主体的学習環境整備を行う。

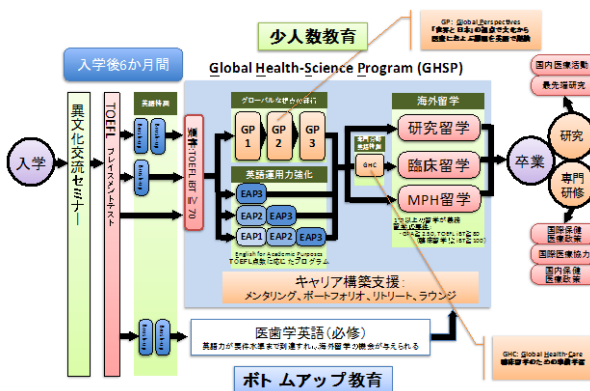
## ○ 戦略的な国内外への教育情報の発信

本学の教育情報（教育課程（コンピテンシー/シラバス/海外留学機会等）・外国人教員数・教育外部資金獲得状況・教育における国際連携/提携・学生に関する情報（卒業後進路等）・外部評価実施状況）につき、Websiteおよび年次報告書を通して日本語・英語にて発信する。

## ○ 事務体制のグローバル化

語学研修機会創出とその利用のインセンティブ化により既存事務職員のグローバル対応力強化を図るとともに、語学力を有する事務職員の採用を積極的に行う。学内規定や契約等手続きに関わる書類の英語化等を進める。

## ■ グローバル人材として求められる能力の育成



## ボトムアップ教育

全学生を対象とし、入学後早期の異文化交流/全科目最終試験問題の一部英語化/海外留学応募の必須要件設置 (TOEFL基準) /TOEFLの定期受験などにより動機付けを図り、民間英語教育機関との提携や教養/専門課程英語教育のシームレス化による英語教育強化を行うとともに、希望者にはGHSPの一部科目受講も可能とする。

## グローバルヘルスリーダー育成

第1学年後期より卒業までの通年性プログラム「Global Health Science Program (GHSP)」を新設する。TOEFL基準を満たす希望する学生（全学生の10%程度）を対象とし、学士課程教育に加え、英語運用力強化、グローバルな視点の獲得を目的とした必修科目履修、単位互換による海外留学 (TOEFL基準設置) を課し、ポートフォリオの利用とメンタリングによるキャリア構築支援を行う。毎年度末に計算されるGPA基準を満たさない場合は除籍される。

医療人全体の英語運用力底上げ（ボトムアップ教育）と、グローバルヘルスリーダー育成のための通年性プログラム（Global Health Science Program (GHSP)）

これら取組には、新たに設置するグローバルキャリア支援室があたる。同室は国際公募する英語を母語とする教員（医療のいずれかの分野を専門とする）複数名を含む本学教員よりなり、英語を公用語とする。

## ■ 語学力を向上させるための入学時から卒業時までの一体的な取組

## ○ 入試における中等教育段階までの外国語力・留学経験等の適切な評価

一般選抜および学士編入学試験における英語運用力の評価に加え、「留学経験や在外経験」から得られるグローバルな視野や問題意識、今後グローバル化の進む世界における日本の役割という観点からの長期的キャリア考察を、面接での重点的検討項目とする。

## ○ 効果的な語学教育及び教育体制

全学生を対象として、英語運用力の必要性の認識を深めるための「異文化交流セミナー」の入学後早期実施、全科目最終試験問題の一部英語化、海外留学応募の必須要件にTOEFL基準を設置、民間英語教育機関との提携や教養/専門課程英語教育のシームレス化による英語教育強化（小グループ議論が主体）、一部選択科目の履修を完全英語化、定期的なTOEFL受験による学習成果確認を行う。GHSP履修生には、更に高い英語運用力/情報発信力/コミュニケーション力の養成のための特訓コースを設置する。

## ■ 教員のグローバル教育力の向上

## ○ 教育体制のグローバル化

語学研修機会の増大とその利用のインセンティブ化により教員のグローバル化対応力強化を図る。国内外提携校からの教員招聘や、国際公募による英語を母語とし医療のいずれかの分野を専門とする教員雇用を行う。

## ○ グローバル教育力向上のための取組

海外教育提携校教員の招聘などを通じた、全学レベルでの教育力に関する教員研修、そして同提携校への派遣などを通じた個人レベルでのグローバル教育力向上のための取組を行うとともに、それらへの積極的な参加のインセンティブ化を図る。

## ■ 日本人学生の留学を促進するための環境整備

## ○ 動機付けや留学を促進するための取組

全学生を対象とした異文化交流機会の創出、留学経験の共有のためのリトリート実施などを行う。また、専門分野での臨床留学の準備教育として、診療現場での英語運用能力学習機会を創出する。

## ○ 留学中から帰国後にわたるサポート体制

グローバルキャリア支援室が、留学前および留学中の支援を一元的に行う。特に留学中は、帰国後の学業生活に支障のないよう留学中の学修面および身体/精神面に配慮したサポートを行う。

**卒業・修了時に学生が修得すべき具体的能力**

**【本学卒業生全員】**

文化/価値観の多様性の背景要因を説明でき、尊重できる。専門用語の英語表記/理解ができる。問題解決のための情報同定/批判的吟味ができる。医療情報の口頭/文書での伝達ができる。

**【GHSP履修生】**

<共通> 上記に加え、日本の歴史/文化/制度の特徴について海外と対比し英語で説明できる。英語にて建設的に議論に参加できる。

<生命科学を志向する学生> 問題提起/仮説立案/研究計画および実施、そして結果の口頭/書面発表と議論を英語で行うことができる。

<国際協調/医療産業等、臨床医学分野を志向する学生> 専門領域の医療サービスを英語で提供できる。

<国際保健/医療政策分野を志向する学生> 当該分野に関する修士課程修了レベルの知識/技能を有し、当該分野の議論/活動に英語で建設的に参加できる。

**本構想において実現する達成目標**

全学		2011	2012	2013	2014	2015	2016	
外国語カスタンダードを満たす学生数				53人	55人	62人	79人	
うち海外留学未経験者数 (A)				12人	11人	15人	18人	
海外留学経験者数 (B)		32人	36人	44人	47人	52人	62人	
卒業[予定]者数 (C)		266人	271人	274人	274人	310人	290人	
比率 ((A+B)/C)				20.4%	21.2%	21.6%	27.6%	
医学部	卒業時の外国語カスタンダード	TOEFL(iBT) 80		43人(8)	45人(8)	47人(8)	59人(8)	
	海外留学経験者数	32人	32人	38人	40人	44人	52人	
	3カ月未満	3カ月未満	14人	13人	19人	21人	25人	28人
		3カ月～1年	18人	19人	19人	19人	19人	24人
		1年超	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	卒業[予定]者数		172人	173人	179人	183人	201人	195人
歯学部	卒業時の外国語カスタンダード	TOEFL(iBT)80 TOEIC730		10人(4)	10人(3)	15人(7)	20人(10)	
	海外留学経験者数	0人	4人	6人	7人	8人	10人	
	3カ月未満	3カ月未満	0人	4人	6人	7人	8人	10人
		3カ月～1年	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		1年超	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	卒業[予定]者数		94人	98人	95人	91人	109人	95人

※1)「外国語カスタンダードを満たす学生数」の学部ごとの記入欄の( )内は、外国語カスタンダードを満たす学生数のうち「単位取得を伴う海外留学未経験」の学生数を示す。

※2)上記の「海外留学経験者数」は、いずれも単位取得を伴う海外留学経験者数であり、単位取得を伴わない海外留学経験者は含まない。